


  
森のちやれんがニュース
   
2017夏


## 今年も白熱、恒例行事「縄文土器をつくる」

毎年恒例となっている当館の人気講座、ちやれんがワークショップ「縄文土器をつくる」(江別市教育委員会との共催)。今年も幅広い年齢層の参加者の手で、こだわりの土器の数々がつくられました。27年ぶりに土器づくりに挑む要田仁さんは、当館のウェブサイトでこの行事を知り、娘の悠さん(小学4年生)を誘ってご参加くださいました。お二人、両者劣らず真剣な眼差しで、黙々と土器を成形していました。第1回で成形した土器を、3週間乾燥させ、第2回に江別市セラミックアートセンターで「野焼き」して、完成です。

土器づくりのほかにも、北海道博物館では、年間を通して、さまざまなイベントを行っています。特に、7月から9月にかけては、小・中学生向けに、ものづくりや生き物の観察などを行う「ちやれんが子どもクラブ」、そして、第3回特別展「プレイボール！—北海道と野球をめぐる物語—」の関連講演会や、初の試みである「博物館寄席」など、イベント目白押しです。博物館の楽しみ方は、展示を見るだけにとどまりません。詳しい案内や申し込み方法は、「北海道博物館行事あんない」や、当館ウェブサイトをご覧ください。



### CONTENTS

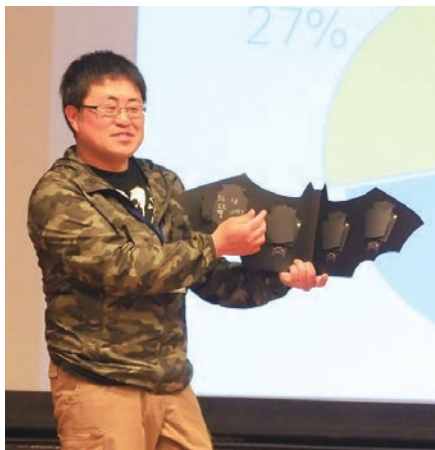
- ② イベントレポート  
「夜の森」でコウモリ観察
- ③ 展示会予告  
第3回特別展「プレイボール！」
- ④ 研究活動紹介  
北海道・住まいの道のりをたどって
- ⑥ ピックアップ  
スマートフォンを片手に、ぶらり北海道博物館
- ⑦ アイヌ民族文化研究センターだより
- ⑧ 行事のおしらせ/活動ダイアリー

## イベントレポート

# 「夜の森」でコウモリ観察

日が沈んでからの、昼間とは違う動物たちのすがたに着目する企画テーマ展「夜の森—ようこそ！動物たちの世界へ—」（2017年4月28日～6月4日）にあわせて、夕暮れ時の森でコウモリを探る観察会、「あなたの街のコウモリの森 in 野幌森林公園」を、5月20日(土)に開催しました。

企画テーマ展と同時開催のコウモリ写真展「あなたの街のコウモリの森」の企画者である動物写真家の中島宏章さんを特別講師に迎え、屋外での観察会に先立ち、コウモリの種類や生態について詳しく話していただきました。あまり知られていませんが、北海道は、「コウモリ天国」。確認される種数は18種と全国でもとりわけ多く、北海道のすべての市町村に必ずコウモリは住んでいるそうです。コウモリがどんなものを食べて、どんなところで寝ているのか。意外な生態を、たくさんの写真で紹介していただきました。



特別講師の中島宏章さん



コウモリ型クイズボードでコウモリの食べ物を学ぶ



森林公園で寝転んでコウモリ観察

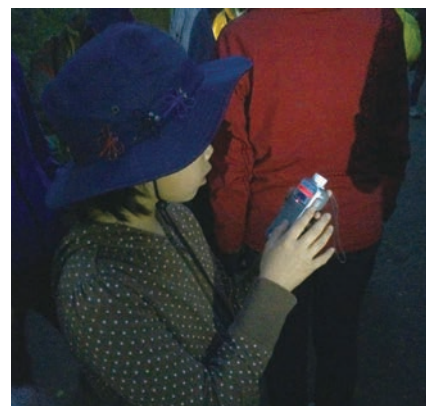
コウモリは、日没から30分くらいが一番見つけやすいとのこと。野外での観察会は、ちょうど日が沈んだ19時頃に始めました。コウモリは超音波というヒトには聞こえない高い音を出して、レーダーのようにまわりを「見て」います。この音は種類によってはクラクションなみの大声だそうです。バットディテクターという、超音波をヒトの耳にも聞こえる音に変換する装置をあちこちへ向けてコウモリを探しました。当日は雲ひとつない天気で、日が沈んでもずいぶん明るかったのですが、19時半頃にはどんどん暗くなってきました。



コウモリを探し出す「バットディテクター」

中島さんいわく「夕暮れは一日の中でもっともドラマチックな時間」。景色も、活動する動物も、がらりと変わります。その変化を体感するため、みんなで地面に敷いたシートの上に寝転がり、刻々と色が変わっていく空を眺めました。枯葉のなかで眠るコテングコウモリの生態に興味を持った神洋武さん(5歳)も、弟の優真さん(3歳)と並んで空を凝視します。残念ながら今回はコウモリ発見とはなりませんでした。鳴きながら飛ぶヤマシギや産卵に集まったアマガエルの合唱など、初夏の夜の森を味わっていただきました。

表 溪太(学芸員)



「バットディテクター」で探索

## 展示会予告

## 第3回特別展「プレイボール！—北海道と野球をめぐる物語—」

2016年の北海道日本ハムファイターズによる日本シリーズ制覇、夏の甲子園における北海高校の活躍は、皆さんの記憶にも新しいのではないのでしょうか？

いまから140年ほど前に北海道へ伝わってきた野球は、スポーツとして、遊びとして、北海道の社会や産業、くらしのうつりかわりと深く結びつきながら、多くの人びとに親しまれてきました。

この夏、北海道博物館では、草野球や野球ゲームから、少年・高校・大学・社会人野球、そして、プロ野球まで、北海道における野球の歩みを、数々の実物資料や写真などからふりかえる特別展が開幕します(2017年7月8日～9月24日)。



学芸主幹 三浦 泰之

1974年、静岡県清水市生まれ。1997年より北海道開拓記念館(現北海道博物館)学芸員。専門は日本近世史。北海道博物館野球チーム「ミュージアム」の主将を務める。

展示は、「プレイボール!」、「ベースボールがやって来た」、「球児と学生たちの夢」、「強者ぞろいの社会人野球」、「プロ野球を観に行こう」、「くらしのなかの野球」、「ゲームセット!」の7章で構成します。知られざる北海道野球史のエピソードから、皆さんの思い出に残る懐かしい名場面まで、さまざまな「物語」と出会ってほしいと思います。

また、ファイターズ選手の実物大写真パネルと記念撮影ができるコーナーや、エポック社提供の野球盤ゲームで遊べるコーナー、ミズノや札幌ドームの協力による、いろいろな野球用具に触れる期間限定展示コーナーなど、さまざまな仕掛けもご用意しています。

幅広い世代のお客さんに楽しんでもらえる展示、そして、会場を訪れたご夫婦やご友人、親御さんと子供さん、おじいさんやおばあさんとお孫さんとの間で、野球をテーマに会話が弾むような展示にしたいと考えています。また、会期中には、元・ファイターズのエースで野球評論家の岩本勉さんの講演会、小学生限定のスピードガンコンテストなど、たくさんのイベントも予定しています。展示やイベントの詳細は、当館のウェブサイトをご覧ください。

この夏は、北海道博物館で、たっぷり野球を味わってみませんか？

最後になりましたが、準備に際し、NPO法人北海道野球協会をはじめ、さまざまな団体や機関、個人の方々にお世話になりました。この場をお借りして感謝申し上げます。

三浦 泰之(学芸主幹)



北海道勢として初めて夏の甲子園で優勝した駒澤大学附属苫小牧高校に贈られた優勝楯 2004年(駒澤大学附属苫小牧高等学校所蔵)



北海道勢として初めて都市対抗野球大会に優勝した大昭和製紙北海道チームに贈られた黒獅子旗のレプリカ 1974年(白老町体育協会所蔵)



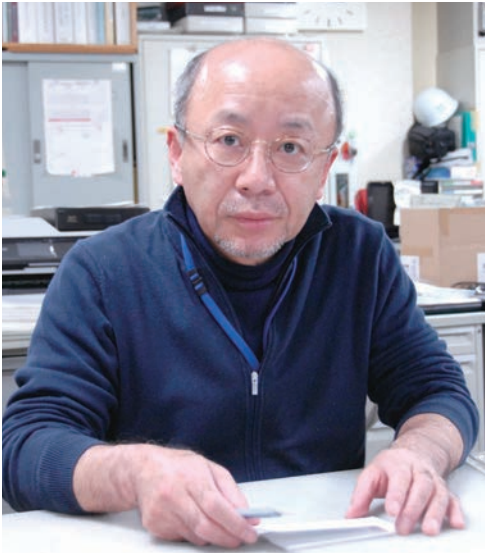
東京六大学野球選手をモチーフにしたメンコ 1940年代ごろ(北海道博物館所蔵)



創部まもない札幌農学校の野球部員たち 1905年(北海道大学大学文書館所蔵)

## 研究活動紹介

## 北海道・住まいの道のりをたどって



学芸員 小林 孝二

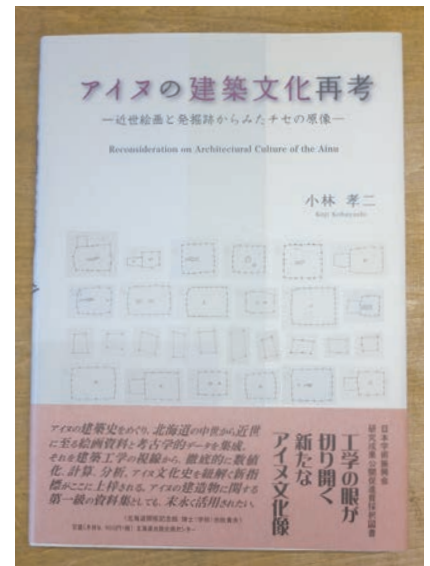
1952年、小樽市生まれ。1980年より北海道開拓記念館（現北海道博物館）学芸員。専門は建築修復・住宅史・アイヌ建築史。博士（工学）。

私の研究の原点は、今から40年以上前（大昔ですね）の卒業論文になります。ザックリ言うと、北海道における住宅生産組織（わかりやすく言うと大工棟梁・工務店）の特徴をまとめるもので、その研究の一環で、北海道の住宅建設活動の歴史を年表形式にまとめたことが、結果的に現在までの研究活動を支える軸になっているように思います。

北海道開拓記念館勤務後の仕事の多くは、「北海道開拓の村」での歴史的建造物の移築復元に関わる調査と工事でした（開拓の村に関わる調査の内容については、あまりに膨大でここでは書き切れません）。ただし初めての実測調査はその7年前、大学2年生の時

で、調査方法も教えられないまま調査し、実測図を描きました。その建物は旧福士家住宅として開拓の村に展示されています。その後、数年、設計事務所で多くの歴史的建造物の調査・復元設計に関わる事が出来、実学としての建築修復を学ぶことが出来ました。

日本の大学における建築教育は、関東大震災や戦争時のトラウマからか、木造建築、特に木造住宅を軽視する時代が続き、結果、木造住宅を詳しく学んだ建築研究者は限られています。今後、歴史的建造物を修復し維持していく上で大きな課題となることが心配されます。



著書の『アイヌの建築文化再考』是非、図書室で一読を。



カナダの野外博物館調査 念のため、中央が小林です。



初めての実測調査 1973（昭和48）年 一番右が小林です。



第7回企画テーマ展「あったかい住まいー北海道・住まいの道のりー」展示風景



今では目にすることも少なくなった大工道具のコーナー

建築史は建築学の中のくくりでは「歴史・意匠」に属します。建築意匠学の第一歩は歴史的建造物の理解から始まります。従って、大学教育では歴史的評価が定着している建築様式を学びます。「民家」が対象となることは少なく、対象となる民家も「骨董趣味」的傾向が強いことは否めません。

博物館学芸員として活動する中で徐々にこうした「歴史・意匠」学に違和感を持つようになってきた中で、庶民の「住まい」を作ってきた諸職、具体的には屋根（桎割・桎葺）、大工、建具、左官、畳などの職人さんの聞き取り調査や漁家・農家住宅、炭鉱・鉱山の住まい（炭住・鉱員住宅等）についても調べ論文にまとめてきました。その後、アイヌの住居（チセ）に関する講座の一部を担当することになりました。問題意識はあったものの民族学の知識は乏しく、正直、腰が引けていたのが当時の心境です。必要に迫られて、既往研究・解説書を読む中で、違和感が増殖していきました。チセに関する記載や復元住居は判を押したよう

に似通ったものばかりでした。歴史的変遷や地域性、規模と構造などの建築物を規定するための多様であるべき視点が欠落していると感じました。博物館の建築史研究者が取り組むべきテーマであろうと考えたと同時に、越えるべき複雑な壁を前に躊躇の日々が続きました。その後、国内研修生として数ヶ月研究に専念できたことをきっかけに、同僚学芸員からの資料の提供、助言もいただき、3年ほどで近世以前のアイヌの建築文化を博士論文としてまとめることが出来ました。内容は、次代の方々が使える資料となるように、工学的立場から極力データを数値化し、客観的な資料とすることに努めました。この論文をベースに科学研究費の研究成果公開促進費を得て、『アイヌの建築文化再考ー近世絵画と発掘跡からみたチセの原像ー』を公刊しました（自費ではとても無理でした）。学術論文で、なにぶん高価ですので、当館の図書室にも備えております本を是非ご利用下さい。

チセ研究の反動もあって、近年は近

代・現代の住まいに注目しています。気づいてみると、昭和の住まいの変遷も住宅史研究の対象とすべき時代になっています。明治期以降、本州以南から持ち込まれた住文化は北海道の環境に適応しない「欠陥住宅」でしたが、150年あまりを経て、今や、冬の北海道の住まいは日本一あったかいともいわれています。

一方で、社会的資産であるべき新築住宅の寿命は延びているとはいえ、空き家問題も深刻です（一昨年、全国で800万戸を超えました）。土地と住まいの両方に資産価値を認める欧米では、自ずと住まいの維持管理を怠らず、結果的に歴史的な様式の住まいが尊重されています。これからの住まいを考えるには「高断熱・高气密」といった性能の向上だけでは限界があるように思います。このような思いを込めて開催したのが、第7回企画テーマ展「あったかい住まいー北海道・住まいの道のりー」（2017年2月3日～3月31日）でした。

小林 孝二（学芸員）



小樽に現存する（5月11日現在）天然スレートのうろこ壁のこる木造3階建の住まい 最新の民家調査速報？小林が知る限り小樽で唯一のうろこ壁の現存例です。

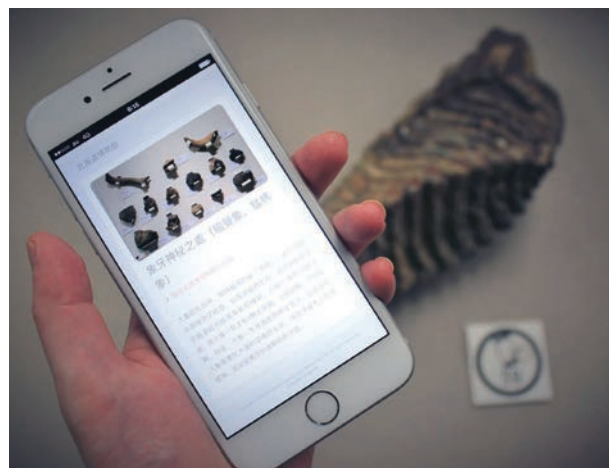
## ピックアップ

# スマートフォンを片手に、ぶらり北海道博物館



学芸主幹 池田 貴夫

1970年、埼玉県熊谷市生まれ。1997年より北海道開拓記念館(現北海道博物館)学芸員。専門は民俗学。博士(学術)。



ミュージアム展示ガイドアプリ「ポケット学芸員」(サービス運営:早稲田システム開発株式会社)

北海道博物館では、総合展示室のパネル解説文や展示物の説明を自分のスマートフォンに表示し、読むことができます。日本語はもちろんですが、今後ますますの増加が見込まれる外国人観光客の方々にも、展示に関する多くの情報を提供できるよう、英語、中国語(簡体中文・中国)、中国語(繁体中文・台湾)、韓国語、ロシア語の6言語に対応した展示解説サービスです。

サービスのご利用は簡単です。Apple StoreやGoogle Playから「ポケット学芸員」という無料アプリを、自分のスマートフォンにダウンロードします。時間は、そうかかりません。アプリを開いたら、まずLanguage Settingの画面で好みの言語を上記の6言語のなかから選びます。次に、「施設を選ぶ」の画面でこのアプリを利用している博物館リストのなかから「北海道博物館」を選択します。すると、北海道博物館のトップ画面が表示されますので、「ガイドへ」に進みます。これで準備は完了です。

総合展示室内には、パネル解説文や展示物の近くに番号が記された表示サインがあります。その番号を入力すると、パネル解説文や展示物の詳しい説明が表示されます。2017年6月30日現在、総合展示室内で総計374箇所のパネル解説文や展示物について、上記6言語による解説を用意していますので、ボリューム満点です。

北海道博物館では2016年4月19日より、この多言語展示解説サービスを導入しました。また、2017年5月12日からは、北海道庁旧本庁舎(赤れんが庁舎)の2階に開設している「北海道博物館赤れんがサテライト」においても、このサービスを体験いただけるようにしました。赤れんが庁舎には、毎日のように多くの外国人観光客が訪れています。北海道博物館が外国人観光客に配慮した博物館であることを知っていたら、多くの外国の方々が“森のちやれんが”へと足を運んでいただけるきっかけとなればと考えています。

北海道博物館では、よいモノを集め、大切に保管し、それらに関する研究を進め、よりよい展示や教育プログラム

へと結びつけるといった一連のサイクルをとおして、年齢や国籍を問わず、より多くの方々にご利用いただけるよう、日々活動しています。

今回のスマートフォンによる多言語展示解説サービスも、多くの外国人観光客に北海道博物館にお寄りいただき、北海道の自然・歴史・文化に関する情報をきめ細やかに提供したいという観点から、構築したものです。

スマートフォンを片手に、熱心に展示を見学している外国人観光客の姿も日常的に見られるようになってきました。今後も、あらゆる利用者層へのサービス向上にむけて努力していきたいと思えます。

池田 貴夫(学芸主幹)



表示サインの番号を入力



展示物の写真とその説明が表示されます

アイヌ民族文化研究センターだより

## 第3回アイヌ文化巡回展を羅臼町で開催

昨年度から道内市町村で開催している「アイヌ文化巡回展」。来たる7月22日から、その第3回を、根室管内の羅臼町郷土資料館で開催します。今回もテーマは「地名」です。当館が所蔵する、アイヌ語地名研究の第一人者・山田秀三氏(1899～1992)が遺した膨大な資料の中から、羅臼町とその周辺(知床半島、標津町など)などに関する、地図や調査記録のノートなどを紹介します。



### 第3回アイヌ文化巡回展

「アイヌ語地名を歩く ～山田秀三の地名研究から～ 2017 羅臼」

- 期間 : 7月22日(土)～10月18日(水)
- 会場 : 羅臼町郷土資料館  
(目梨郡羅臼町峯浜町307番地 TEL 0153-88-3850)
- 開館時間 : 9:00～17:00
- 休館日 : 9月16日(土)以降の土・日・祝日  
9月16日(土)、17日(日)、18日(月・祝)、23日(土・祝)、  
24日(日)、30日(土)、10月1日(日)、7日(土)、8日(日)、  
9日(月・祝)、14日(土)、15日(日)  
\*9月15日(金)までは無休

この地図は、山田秀三氏が1974(昭和49)年に知床半島の地名を調査したときの記録の一部です。国土地理院による縮尺5万分の1の地形図を貼り合わせて作られており、ペンや鉛筆による書き込みは全て山田秀三氏によるものです。巡回展では、この地図を大きく引き延ばして展示します。知床の地名を、じっくりとご覧ください。

**行事のおしらせ** 7月～9月

**展示会**
**第3回特別展**
**プレイボール！—北海道と野球をめぐる物語—**

7月8日(土)～9月24日(日)

特別展示室・有料


**イベント**
**ちゃれんが子どもクラブ**
**ちいさな野球盤づくり**

7月22日(土)13:30～15:00

講堂・無料

講師/村上孝一・舟山直治

定員/小・中学生先着30名(事前申込、6月23日(金)より受付)

**特別イベント**
**ミズノ 親子でクラブづくり**

7月29日(土)①10:00～12:00 ②13:30～15:30

講堂・有料

講師/ミズノ株式会社スタッフ

定員/各回20組(小学生1名と保護者1名で1組、事前申込、6月30日(金)より受付)

※ 行事の申し込みについては、『行事あない2017年度前期』もしくはウェブサイトをご覧ください。

**ミュージアムカレッジ**
**明治・大正・昭和の日記に見る北海道と野球**

7月30日(日)13:30～15:30

講堂・無料

講師/三浦泰之

定員/先着80名(事前申込、7月1日(土)より受付)

**ちゃれんが子どもクラブ**
**トノサマバッタを追いかけよう**

8月5日(土)10:00～12:00

野幌森林公園内(自然ふれあい交流館集合)・無料

講師/堀繁久・水島未記・表溪太、濱本真琴・扇谷真知子(自然ふれあい交流館)

定員/小・中学生先着40名(事前申込、7月6日(木)より受付)

**講演会**
**日本野球界の現状と課題**

8月6日(日)13:30～15:30

講堂・無料

講師/柳俊之氏(NPO法人北海道野球協議会理事長)

定員/先着80名(事前申込、7月7日(金)より受付)

**ちゃれんが子どもクラブ**
**フェルトで野球のバットとボールのストラップをつくらう**

8月19日(土)13:30～15:00

講堂・無料

講師/会田理人

定員/小・中学生先着40名(事前申込、7月20日(木)より受付)

**特別イベント**
**アオタモでコースターづくり**

8月20日(日)10:30～15:30

講堂・無料

定員/小学生先着80名(事前申込不要)

**ミュージアムカレッジ**
**樺太全島野球大会**

8月27日(日)13:30～15:30

講堂・無料

講師/会田理人

定員/先着80名(事前申込、7月28日(金)より受付)

**ちゃれんが子どもクラブ**
**トコロテンの不思議**

9月2日(土)13:30～15:00

講堂・無料

講師/会田理人・尾曲香織

定員/小・中学生先着40名(事前申込、8月3日(木)より受付)

**特別イベント**
**博物館寄席「北海道 野球の歴史で ございます」**

9月3日(日)13:30～15:00

講堂・無料

講談/荒到夢形氏(講釈師)、案内役/下斗米哲明氏(歴史研究者)

定員/先着80名(事前申込、8月4日(金)より受付)

**講演会**
**北海道高等学校野球連盟70周年を迎えて**

9月10日(日)13:30～15:30

講堂・無料

講師/田中俊一郎氏(北海道高等学校野球連盟会長)

定員/先着80名(事前申込、8月11日(金)より受付)

**ちゃれんが子どもクラブ**
**アンモナイトを解剖しよう**

9月16日(土)13:30～15:00

講堂・無料

講師/栗原憲一・圓谷昂史

定員/小・中学生先着40名(事前申込、8月17日(木)より受付)

**講演会**
**ブラバン応援 もうひとつの夏の闘い**

9月17日(日)13:30～15:30

講堂・無料

講師/梅津有希子氏(ライター)

定員/先着80名(事前申込、8月18日(金)より受付)

**ミュージアムカレッジ**
**全道樺太実業野球大会**

9月24日(日)13:30～15:30

講堂・無料

講師/会田理人

定員/先着80名(事前申込、8月25日(金)より受付)

**活動ダイアリー** 4月～6月

4月1日	はっけんイベント「夜に飛ぶ動物を作ろう!」開催(～6月25日)	5月24日	総合展示室内プロローグのナウマンゾウ全身骨格に北海道日本ハムファイターズのロゴ入りタペストリーを設置
4月22日	自然観察会「エゾアカガエルの合唱を聞こう」開催	5月28日	講演会「昆虫写真家 海野和男の生きもの写真のススメ」開催
4月28日	第8回企画テーマ展「夜の森—ようこそ!動物たちの世界へ—」開催(～6月4日)	6月4日	ちゃれんがワークショップ「縄文土器をつくる(第1回つくる)」開催
4月29日	ミュージアムトーク「北海道のかたつむり」開催	6月8日	環境生活部「さとりダイバシティ〜ず」の「onちゃんおはようたいそう」収録
	屋上スカイビュー開放	6月11日	ミュージアムカレッジ「学校をつくる—近代北海道のアイヌ民族による小学校設置の取り組み—」開催
4月30日	講演会「最新研究報告—北海道と極東ロシアのシマフクロウ—」開催	6月18日	自然観察会「北海道フワフワソ」に参加しよう!」開催
5月3～5日	ミュージアムトーク「企画テーマ展「夜の森」道先案内」開催	6月24日	日本セトロジー研究会第28回(札幌)大会共催(～25日)
	屋上スカイビュー開放	6月25日	ちゃれんがワークショップ「縄文土器をつくる(第2回焼く)」開催
5月12日	赤れんがサテライトでスマホによる多言語解説サービスを導入		
5月20日	自然観察会「あなたの街のコムモリの森 in 野幌森林公園」開催		

**人事異動**

発令内容(前職):氏名/退職(3月31日付)(副館長):吉田公伸、(学芸部博物館基盤グループ兼研究部歴史研究グループ学芸員):寺林伸明、(学芸部道民サービスグループ兼アイヌ民族文化研究センター学芸員):出利葉浩司、(学芸部社会貢献グループ解説員):斉藤智子/転入(4月1日付)副館長:梅木克也、総務部長兼総括グループ主幹:川田宣人、総務部総括グループ主査:杉村直樹、総務部総括グループ主査:鈴木健介/転出(4月1日付)(総務部長兼総括グループ主幹):北敏文、(総務部総括グループ主査):藤本剛、(総務部総括グループ主査):今聡人/再任用(4月1日付)総務部企画グループ兼研究部博物館研究グループ学芸員:村上孝一、学芸部道民サービスグループ兼研究部博物館研究グループ学芸員:小林孝二/内部異動(4月1日付)学芸副館長兼アイヌ民族文化研究センター長兼研究部長(アイヌ民族文化研究センター長兼研究部長):小川正人、総務部企画グループ兼研究部歴史研究グループ学芸主幹(同主査):三浦泰之、総務部企画グループ兼アイヌ民族文化研究センター研究職員(学芸部博物館基盤グループ兼アイヌ民族文化研究センター研究職員):遠藤志保、学芸部博物館基盤グループ兼アイヌ民族文化研究センター研究職員(総務部企画グループ兼アイヌ民族文化研究センター研究職員):田村雅史、学芸部博物館基盤グループ兼アイヌ民族文化研究センター研究職員(学芸部道民サービスグループ兼アイヌ民族文化研究センター研究職員):大坂拓、学芸部博物館基盤グループ兼研究部生活文化研究グループ学芸員(学芸部道民サービスグループ兼研究部生活文化研究グループ学芸員):尾曲香織、学芸部道民サービスグループ兼研究部自然研究グループ学芸主査(学芸部博物館基盤グループ兼研究部自然研究グループ学芸員):添田雄二、学芸部道民サービスグループ兼研究部生活文化研究グループ学芸主査(学芸部社会貢献グループ兼研究部生活文化研究グループ学芸主査):青柳かつら、学芸部社会貢献グループ兼アイヌ民族文化研究センター研究主幹(同主査):甲地利恵、学芸部社会貢献グループ兼研究部博物館研究グループ学芸主査(学芸部道民サービスグループ兼研究部博物館研究グループ学芸主査):杉山智昭

**来館者数**

○2017年3月～5月

総合展示室 17,750人 特別展示室 14,086人 はっけん広場 4,467人

○累計(2015年4月～2017年5月)

総合展示室 271,005人 特別展示室 201,116人 はっけん広場 65,539人

**森のちゃれんがニュース 第8号**

発行日:2017年6月30日

編集・発行:北海道博物館

〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2

Tel.(011)898-0456 Fax.(011)898-2657

 ウェブサイト <http://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp>

©Hokkaido Museum, 2017